



# がん検診について 知っておいてほしいこと

がんは日本人の死因で最も多く、生涯のうち2人に1人がかかると言われています。早期がんの大半は無症状のため「検診を受けなくても大丈夫」と思いかちです。がんの早期発見、早期治療のためにも自覚症状のない時にこそ検診を受けましょう。

## 1. がん検診のメリット（利益）、デメリット（不利益）について

ご自身にとってのメリット、デメリットを確認したうえでがん検診を受けましょう。年齢や持病などで体調に心配があり、検査を受けるか迷ったら、かかりつけの医師にご相談ください。

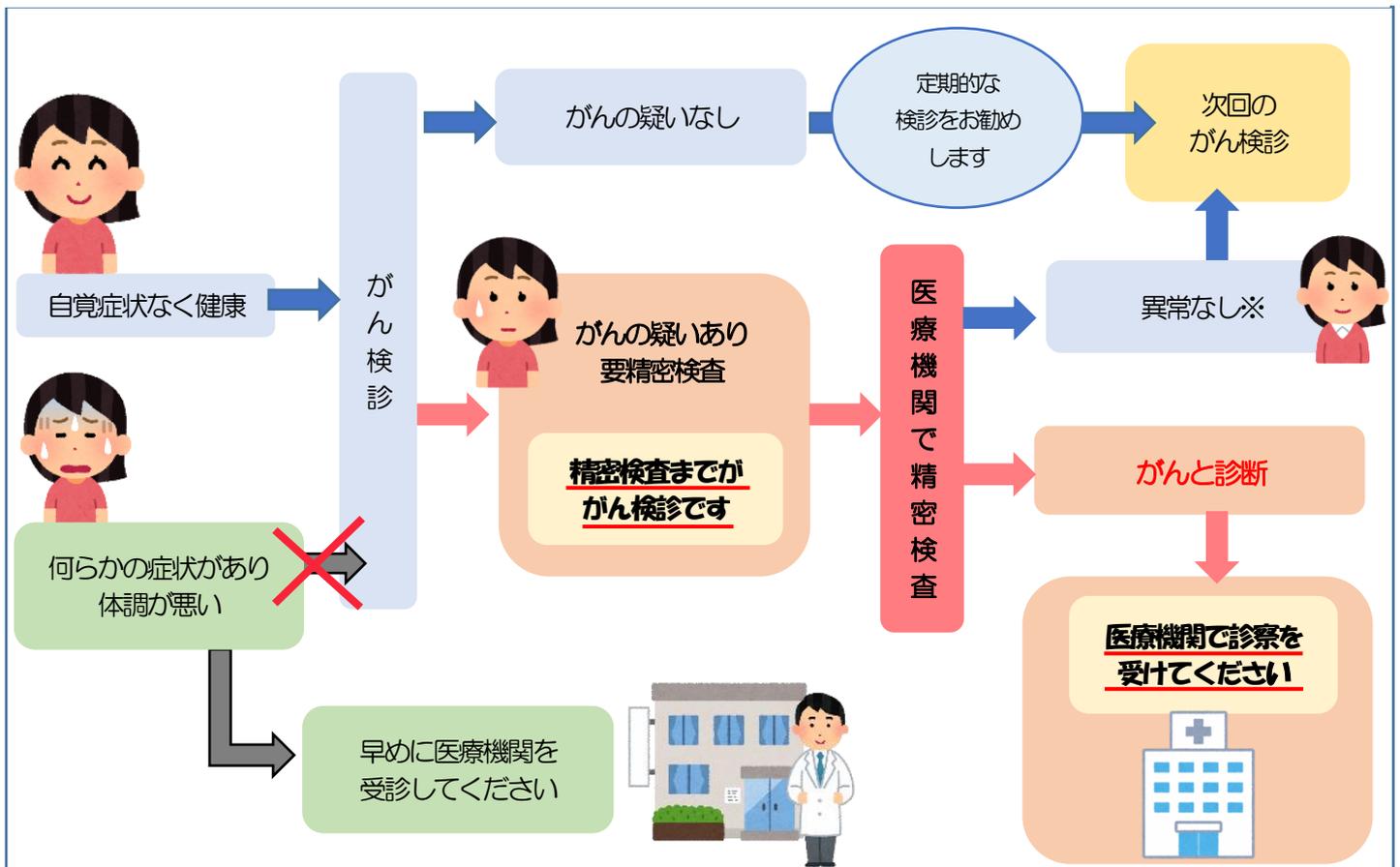
### メリット（利益）

- **早期発見、早期治療によりがんによる死亡者を減らせる**  
国が推奨している5がん「肺がん」「大腸がん」「胃がん」「乳がん」「子宮頸がん」のがん検診を安価に、科学的根拠に基づいた方法で行っている
- **早期の段階のがんが見つかりやすい**  
早期であれば治療による、経済的、時間的、心理的負担が少ない
- **がんになる前段階の病気が見つかることがある**  
経過観察、必要な治療でがんになることを防ぐ治療ができる

### デメリット（不利益）

- **がんが100%見つかるわけではない**  
一定の大きさになるまで発見できないがんや検査では見つけにくいがんもある
- **不必要な検査を招く可能性がある**  
がんでない、治療の必要のないと分かるまでの検査をする
- **検査による偶発的な状況が起きる**  
突発的な事故など
- **検査を受ける心理的な負担がある**  
精密検査結果が出るまでの心理的な影響がある

## 2. がん検診から診断までの流れ



※ 精密検査を受けた場合、結果内容によっては次回の検診は、医療機関で受けることをお勧めします。

### 3. がん検診を受ける前にお読みいただきたいこと

検診種類	がんが原因の死亡者数、罹患数順位	死亡率減少効果のある検査方法	精密検査方法	がん検診対象	その他
<p>肺がん</p> 	<p>死亡者数 男性 1位 女性 2位</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胸部レントゲン検査</li> <li>喫煙者への喀痰細胞診検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胸部CT</li> <li>気管支鏡検査</li> </ul>	<p>40歳以上 1回/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タバコを吸う人は吸わない人より、肺がん発症リスクが高いといわれています。</li> <li>受動喫煙により周りの人の肺がん発症リスクの高さも科学的根拠が示されています。禁煙についても考える機会にしてください。</li> </ul>
<p>大腸がん</p> 	<p>死亡者数 男性 2位 女性 1位</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>便潜血検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大腸内視鏡 疑わしい場合細胞を採取してがん細胞の有無を検査します</li> </ul>	<p>40歳以上 1回/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>便潜血検査で異常があった場合には精密検査を受けてください。</li> <li>受けて安心! 大腸がんの精密検査 (動画)</li> <li></li> <li><a href="https://youtu.be/w6vRUVpg_dk">https://youtu.be/w6vRUVpg_dk</a></li> </ul>
<p>胃がん</p> 	<p>死亡者数 男性 3位 女性 5位</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胃部バリウム検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胃管内視鏡 疑わしい場合細胞を採取してがん細胞の有無を検査します</li> </ul>	<p>40歳以上 1回/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胃の痛みなど症状がある場合は医療機関に受診してください。</li> <li>ピロリ菌除去をした人またはピロリ菌検査・ペプシノゲン抗体検査が陽性の方は医療機関にご相談ください。</li> </ul>
<p>乳がん</p> 	<p>罹患数 女性 1位</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンモグラフィ検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンモグラフィ検査</li> <li>超音波（エコー）検査</li> <li>画像診断後、疑わしい場合細胞を採取してがん細胞の有無を検査します</li> </ul>	<p>40歳以上 1回/2年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレストアウェアネス（乳房に意識を持つ習慣）</li> <li>日ごろから乳房に意識を持ち乳房のしこり、ひきつれなどがある場合には医療機関（外科、乳腺外科）に受診して下さい。</li> </ul>
<p>子宮頸がん</p> 	<p>罹患数 女性 5位</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子宮頸部の細胞診</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コルポスコープ（腔拡大鏡）を用いた詳しい診察</li> <li>疑わしい場合細胞を採取してがん細胞の有無を検査します</li> </ul>	<p>20～39歳 毎年</p> <p>40歳以上 1回/2年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生理不順などの相談ができる婦人科のかかりつけを持つことをお勧めします。</li> </ul>

※ 検診は自治体と各医療機関が協力、連携して行っています。精密検査結果は関係機関で共有されます。